

聖書箇所： 創世記49章1～3節、5節、10節、22節、28節、33節

- 1：ヤコブはその子らと呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は終わりの日に、あなたがたに起こることを告げよう。
- 2：ヤコブの子らよ。集まって聞け。あなたがたの父イスラエルに聞け。
- 3：ルベンよ。あなたはわが長子。わが力。わが力の初めの実。すぐれた威厳とすぐれた力のある者。
- 5：シメオンとレビとは兄弟。彼らの剣は暴虐の道具。
- 10：王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。
- 22：ヨセフは実を結ぶ若枝、泉のほとりの実を結ぶ若枝、その枝は垣を超える。
- 28：これらはすべてイスラエルの部族で、12であった。これは彼らの父が彼らに語ったことである。彼は彼らを祝福したとき、おのおのにふさわしい祝福を与えたのであった。
- 33：ヤコブは子らに命じ終わると、足を床の中に入れ、息絶えて、自分の民に加えられた。

メッセージ骨子：

<序論> 「マリー・ポドニック」をいう劇を観ました。ストーリーはこうです。自分の醜い姿ゆえに男性に捨てられ、心傷つけられたマリーは、いつのまにか美女をあやめては顔を順番に付け替える「怪人40面相」になる。しかし、彼女のそのモンスターのような心と本当の姿を知りながらも、彼女を愛する男性が現われ、彼が自分の為に命を捨てたことから、彼女は心が癒され、そこから自分の本当の人生が始まる、というお話です。さて旧約聖書のヤコブも、決して人格者とはいえない人となりでしたが、そのヤコブをも主は愛し、徹底的に祝福されました。ところで主が私達のために準備しておられる祝福とは、いったいどのような内容の祝福なのでしょう。

<ポイント1> 「比較ではない only one の祝福」

ヤコブは死ぬ間際、12人の子供たちを傍に呼び、祝福と預言を与えます。ルベンにはルベンの(3節)、ユダにはユダの(10節)、ヨセフにはヨセフの(22節)の祝福があり、12人の頂いた祝福はそれぞれ全く別の内容でした。28節に「おのおのにふさわしい祝福」とあります。私達は、つい人と比べ、同じものさしで測り、競争心を持ってしまいがちですが、実はそれは意味が無いことが分かります。主が備えてくださっている祝福は、それがその人にとってのベストであり、**only one** だからです。主が与えてくださった個別の賜物に沿って、正しい目標設定をしたいものです。

<ポイント2> 「主にゆだねるという祝福」

今現在、とてつもなく大きな重荷をもって生きている方がおられます。でももし、その心の重しの一部でも主にお委ねすることができたとしたら、どれほどその方の人生の足取りが軽くなるでしょう。委ねることの積み重ね、そこから来る平安の積み重ねが、人生の最期の大きな平安を形作ります。ヤコブの最期は33節「息絶えて、自分の民に加えられた」と記されていますが、波乱万丈の人生を終え、最後はおそらく平安のうちに目を閉じたことでしょう。日頃からゆだねるトレーニングをさせていただけるクリスチャンは幸いです。最後は同じイエス様のふところに飛び込んでいくからです。

<ポイント3> 「人生尻上がりの祝福」

アダムが造られたとき、神が人類に最初かけられた言葉は創世記1：28「生めよ、増えよ、地を満たせ」でした。この「生めよ」と訳された箇所は、英文では **Be fruitful**。まず「実り豊かであれ」と。その上で増えよ、いやそのために増えよと主は語られたのです。最後に実をのこす人生、そのために必要なことは、我が人生の主権を真の主権者のお手にお委ねすること。だからヤコブの最期は、若き日の紆余曲折はうそであったかのような、これ以上無いほどの平安と祝福に満たされたものでした。

<まとめ> 若き日のヤコブはまるでモンスター、でもそんなヤコブをも主は一方的に愛し祝福されました。人は本物の愛に触れたとき、自分を回復し、その人に用意された祝福に生きることができるようになります。だからもしあなたも、今主の愛に立ち返るなら、そこには完全な癒しと回復がまっています。マリーの人生は2時間のドラマ中、1時間59分不幸でしたが、マリーの本当の人生は最後の1分のナレーションにありました。それは過去のすべてを「伏線」に変えてしまう、大どんでん返し、喜びと平安の最終章です。そしてその尻上がりの祝福は、上がってあがってそのまま天国に至ります。

「だれでもキリストの内にあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よすべてが新しくなりました」(第2コリント5：17)

以上